

ダイパワー® 水和剤

DYEPOWER

登録番号 第20237号

種類名 イミノクタジナルベシル酸塩・キャプタン水和剤
iminotadine tris (albesilate)・captan

殺菌剤分類 M7, M4

性 状 類白色水和性粉末 45 μm以下

有効年限 5年

有効成分 イミノクタジナルベシル酸塩 20.0%、キャプタン 45.0%

毒 性 普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

包 装 500g×20袋、1kg×10袋

■特 長

- 幅広い抗菌スペクトラムを有する総合防除剤です。
- 作用性の異なる2成分の混合剤であり耐性菌の発生を防止する面からも有効な薬剤です。

最新の登録内容、
SDSはこちら

■適用病害名及び使用方法

(2024年2月15日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	イミノクタジン を含む農薬の 総使用回数	キャプタンを 含む農薬の 総使用回数	使用方法
りんご	黒星病	1,000	200～ 700	収穫前日 まで	6回以内 〔但し、 開花期以 降散布は 3回以内〕	8回以内 〔液剤及び水和剤 は合計6回以内 (開花期以降 は3回以内)、 塗布剤は2回以内〕	6回以内	散布
	斑点落葉病 炭疽病 褐斑病 黒点病 輪紋病 すす点病 すす斑病	800～ 1,000						
おうとう	灰星病 幼果菌核病	1,000		収穫14日 前まで	3回以内	3回以内	5回以内	
かき	うどんこ病				4回以内	5回以内 〔塗布剤は2回以内、 液剤は1回以内〕	9回以内	
なし	輪紋病 黒星病 うどんこ病 黒斑病 炭疽病							
もも	縮葉病			休眠期	1回	3回以内 〔休眠期は1回 以内〕	4回以内	
ぶどう	べと病 黒とう病 晩腐病			収穫60日 前まで	2回以内	3回以内 〔休眠期は1回以内、 生育期は2回以内〕	3回以内	
きゅうり	褐斑病 炭疽病 うどんこ病 べと病	100～ 300	収穫前日 まで	5回以内	7回以内	5回以内 〔種子粉衣は 1回以内〕		
たまねぎ	灰色かび病				5回以内	6回以内 〔種子粉衣は 1回以内、 は種後は 5回以内〕		

△ 効果・薬害などの注意

1. 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
2. 本剤はイミノクタジンを含む農薬であるので、他のイミノクタジンを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用してください。
3. 石灰硫黄合剤、ボルドー液等のアルカリ性薬剤およびマシン油剤との混用はさけてください。
4. 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節してください。
5. りんごに使用する場合、芽出し2週間すぎから落花後25日ごろまではさび果を生じるおそれがあるので、この時期の散布はさけてください。
6. 西洋なし品種ル レクチエではさび果、ももの缶桃14号等の缶詰用品種では葉の薬斑を生じるおそれがあるのでかからないように注意してください。
7. ぶどうに使用する場合、幼果期～袋掛けまでの散布は、果粉の溶脱や果実の汚染を生じるおそれがあるので注意してください。
8. ももでは、発芽後の若葉には薬害を生じるおそれがあるので必ず発芽前に散布してください。
9. ももの縮葉病に使用する場合は、発芽直前の使用が効果的です。
10. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
11. かきの品種西村早生では葉に薬斑を生じるのでかからないように注意してください。
12. おうとうに使用する場合、着色期以降の散布では薬害（着色障害）が生じるおそれがあるので使用しないでください。
13. 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

△ 安全使用上の注意

14. 粉末は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護メガネを着用して薬剤が眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
15. 皮ふに対して弱い刺激性があるので皮ふに付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とししてください。
16. 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換してください。
17. 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
18. かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけてください。
19. 夏期高温時の使用をさけてください。

水産動植物への影響：水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管：密封し、直射日光をさけ、食品と区別して小児の手の届かない冷涼・乾燥した所に保管してください。

【農薬をご使用の際は】

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には、使用しないでください。
- 小児の手の届く所には、置かないでください。
- 空容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。